



みんなで考えよう

平和と人権

「人権文化をすすめる県民運動」

第71回 ふれ愛シネサロン

戦後の混乱期、
日本を支えたのは
「普通の暮らし」を
人々だった。

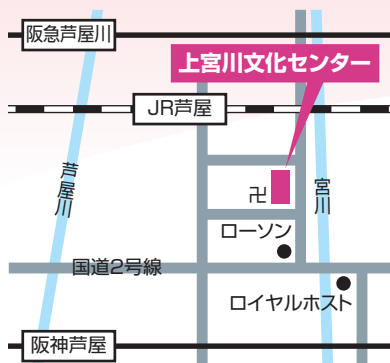
いつまた、君と

ホーリー ジェン サイライ
何日君再来

戦中から現代へ。親から子、子から孫へ受け継がれる、ある家族の“愛の実話”。

監督：深川栄洋 企画：向井理 出演：尾野真千子 向井理 岸本加世子 野際陽子 ほか

©2017 「いつまた、君と 何日君再来」製作委員会



令和4年 **8月6日(土)** <2回上映・30分前開場>
①10:00~12:00 ②13:30~15:30

上宮川文化センター 3階ホール 芦屋市上宮川町10番5号
【駐車場はありません】

申し込み方法：7月1日(金)から7月29日(金)までに電話で受付

*託児(6か月~未就学児) / 定員各回3人


*託児申込みは、7月29日(金)までに人権・男女共生課へ

要申込み
入場無料
各回150人

●土足厳禁のため上履き・靴袋をお持ちください。●マスクの着用をお願いします。●新型コロナウイルス感染拡大の状況により、定員を縮小する場合があります。

申し込み・問い合わせ/人権・男女共生課 TEL.0797-38-2055

主催 / 芦屋市・芦屋市教育委員会



不器用だけれど明るく生きる、
実在の夫婦と家族の姿を通して、
日本人のたくましさ、
誠実な生き方を描く、愛の実話。



81歳になった芦村朋子は、
不慣れな手つきでパソコンにむかい、
亡くなった夫・吾郎との思い出を手記として記録していた。
しかし、朋子は突然病に倒れてしまう。

そんな朋子の代わりに、孫の理が
『何日君再来』と題された祖母の手記を
まとめていくことに。

綴られていたのは今まで知ることのなかった、
戦中・戦後の困難な時代を生きてきた
祖母・朋子と祖父・吾郎の波乱の歴史と、
深い絆で結ばれた夫婦と家族の愛の物語だった――。



俳優・向井理が祖母の卒寿（90歳）のお祝いに、
家族や親せきと自費出版して贈った祖母の手記を、
向井自ら映画化に向け7年の歳月をかけて企画してきた
意欲作。

戦後70年を越え、想像をはるかに上回る急成長を
遂げてきた日本。こうした背景には、映画にもドラマにも
ならなかった人々の生活があった。「いつまた、君と
～何日君再来～」は、特別な人の稀有な逸話ではなく、
ごくごく普通の暮らしを懸命に生きてきた人々の物語で
ある。だからこそ、いま、伝えておかななくてはいけない、
知っていてほしい大切なメッセージが詰まっている。

現代の私たちの心をも揺さぶるに違いない、すべての
日本人へ捧げる、あなたの家族の物語――。

